
ホラー短編シリーズ(脳関連を除く)

脳好き人間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ホラー短編シリーズ（脳関連を除く）

【NZコード】

NZ926N

【作者名】

脳好き人間

【あらすじ】

ホラーの短編集です。

僕はどうしても、ホラーを書くと脳方面に向かってしまうので、意地でも脳に無関係なのを書いてやる。と思つた次第です。

墓、墓つて、怖いよね。だってわ、人の骨がたくさん収納されてるんだよ。

最近、若い女の人がさ、いつつも墓参りに来てるんだよね。それも夜遅く。

それでさ、面白いくこと、墓に話しかけてんだよ。あははははは。超おもしれー。

墓に話しかけるって、マジで頭おかしいんじゃないのか。だって、物だぜ物。

物に話しかけるとか、マジで笑える。つーかせ、その話しかける内容も、めっちゃおもしれーんだぜ。

「私を一人にしないで」とか、「どうして死んじやつたの?」とかさ、いやいや、一人が嫌ならお前も死ねよ。

後追い自殺する勇気もなく、恋人のことを忘れる勇気もないからつて、無駄に墓参りなんかに来やがつて。

ふつ、まあ、「どうして死んじやつたの?」つて質問には、俺でも答えられるけどな。

だつてさ、そいつ殺したの、俺だもん。ふつ、ははははは。やつべー、超樂しーよ。くつ、マジ、笑いを堪えるの、あつつ。

いやー、それにしても、墓つていいよな。指名手配されても、安心して暮らせるし。警察だつて、わざわざ墓の中身まで探さねーもんな。

それにさ、あのバカ女のおかげで、飯にもタバコにも困らねー。ま、まさか自分の供え物が、恋人を殺した犯人の晩飯になつてるとは思わねーだろ? はは、あはははは。

「……それじゃあ、また明日」

バカ女が帰つて行く。よし、お食事タイムだ。

今日は、すげえ豪華だな。まさか、毎日供え物が無くなつてのを見て、死んだあいつが食べてるとか、そんなことを思つてるのか？ つづくづくバカな女だな。では、いつただつきまーす。つて、あれ？ か、体が動かねーぞ。痛い痛いつ！ なんだ、腕が、足が痛い！ おいおい、どうして死んだあいつがいるんだ？ 離せ、離せよっ！

ギー、ギー、近くで音がする。体が動かねーから顔だけ後ろを向くと、墓が、倒れてきた。

痛い、痛い。ヤバイ、どうにか上半身は無事だったが、両足が墓の下敷きだ。

「……よくも、許さん」

あいつが、俺の腕を掴む。グキリ、いつも簡単に、俺の腕は折れた。

さらりに、折れた腕を捩られる。ギギ、ギギ、グチャツ。

「うわあああ！ 腕が、もげた！ おいつ、腕返せよっ！」

次は、反対の腕だ。グキリ、きちんと手順を踏む。

「やめろおおー！ やめてくれえー！」

あいつが、俺に許しを乞う。ギギ、ギギ、ブチツ。ふう、これで両手とも、もげたな。

「やめてくれつ！ 謝るつ！ 謝るからつ！」

次は、首だ。だが、その前に。

「うへ、あめさひ一皿つー。」

田に、石、砂を捩込む。鼻、口、耳にも、満遍なく。
そして、最後に首。

「やめてくれっ！死にたくない、死にたくない……」

ギギ、ギギ、ギギ、ギギ。中々もげない。
ギギ、ギギ、ブチツ。

「……俺も、死にたくないつたよ」

心無し ウナギ（前書き）

心ない男のウナギの舌。

心無し ウナギ

今日も俺は、夜の街を歩く。それも表通りではなく、裏通りを。最近になつて知ったことなんだが、裏通りには、かなりの不法入国者達が生きている。

そいつらの多くが、生きるために犯罪を犯したり、警察に捕まつてしまつたりしている。

可哀相だよな。ただ、生まれた環境が悪かつただけで、俺達だって同じ環境に生まれてたら同じようなことをしてただひつに。

おつと、子供が一人、いや二人。姉妹か。

「おい、お前ら、その生活から抜け出したいとは思わないか?」

俺が話しかけると、一人は顔を見合させた。まあ、言葉が通じないんだから、疑問に思うよな。だが。

「俺が、助けになつてやる。ついて来い」

修羅場をぐぐつて生きてきた奴つてのは、信用できる人間を直感で見分けることが出来る。

俺は、心の底からこいつらをなんとかしてやりたいって思つてゐる。それが伝わるはずだ。今までも、そうだった。

案の定、俺が歩きはじめると、こいつらはついて来てくれた。あとは、同士達の場所へ行くだけ。それからは、こいつら次第だ。まあ、強く生きてくれよ。

傑作だよなあ。あの一人のおかげで、今日も美味しい酒が飲める。
しかしあ、毎度毎度簡単に騙されてくれるよな。

俺みたいな優しいおじさんについて来ちゃって。それまで培つて

きた経験はなんなんだよ。馬鹿だなあ。

不法入国者に、ホームレス。いなくなつたって誰も気づけない。
現に、俺はまだ捕まつていない。

内臓抜くか、風俗行きか。内臓の入れ物は、ウナギの餌にすれば
いい。

ああ、今日は内臓抜きコースじゃなかつたから、ウナギちゃん達
に餌をあげられなかつたな。

俺は優しいおじさんだからな。常にウナギちゃんの為だけに生き
ている。

あいつらが俺の本性を見抜けなかつたのは、多分。
俺が、心なしか心無しだつたからだうつな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0926z/>

ホラー短編シリーズ(脳関連を除く)

2011年12月5日20時07分発行